

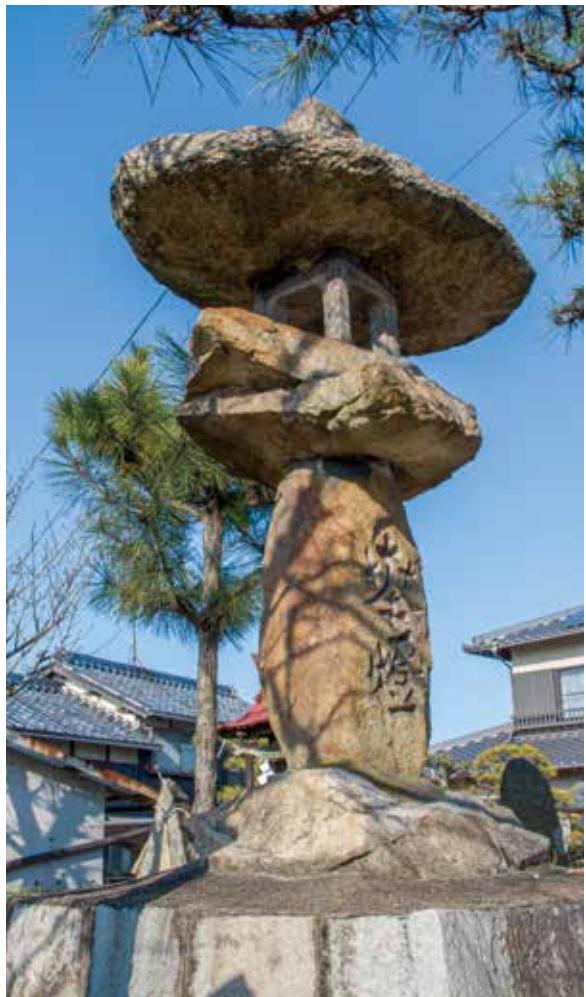
40 常夜灯ほか(関戸)

六間川の旧樋門跡

水難者慰靈塔・木野山神社(撫川720南)

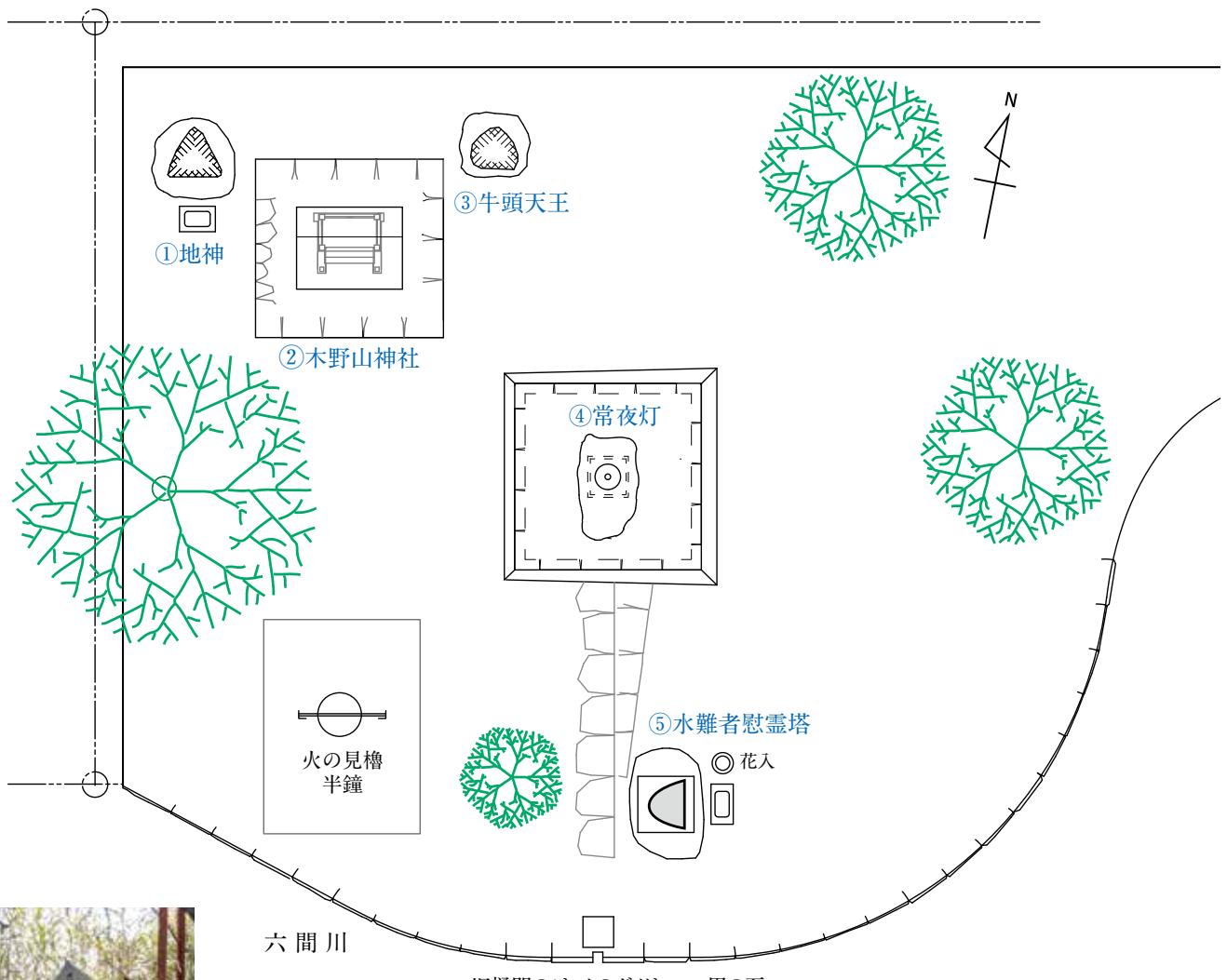


④常夜灯



①地神 ②木野山神社 ③牛頭天王





明治卅六年
七月廿三日
建立為永死
群靈苦提爲
世話方
閻戶信者中
妹尾島
平松源吉
庄下庄
發起人



奥行500

620

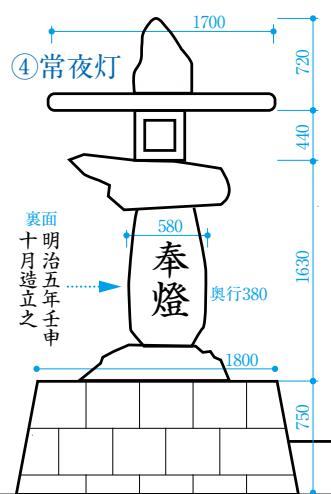
ハニヤスヒコノカミ
塤夜須毘古神 土地の神

ミツハノメノカミ
彌都波能賣神 農業用水の神

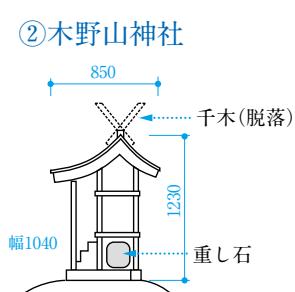
ハニヤスヒメノカミ
塤夜須毘賣神 稲作の神

300

この神々を祀り天土の恵みを祈願した。



明治5年(1872)
土地の神
農業用水の神
稻作の神
土の恵みを祈願した



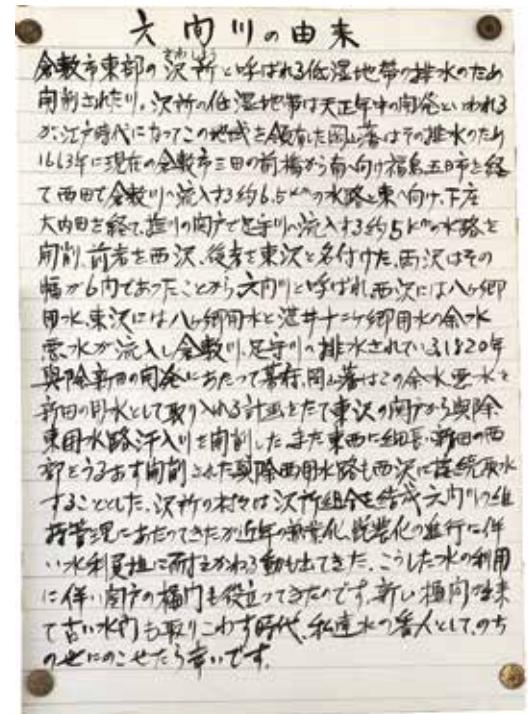
A diagram of the Bull-Headed King of the South (牛頭天王) statue. It shows a large, rounded, bell-shaped body with a small rectangular pedestal at the base. A vertical column of text on the body reads '牛頭天王'. Above the head area, there is a horizontal dimension line labeled '550' and a vertical dimension line labeled '850'. To the left of the head, another vertical dimension line is labeled '180'.

旧樋門の設置場所で、対岸には番小屋があった。自然石で作られた常夜灯は巨大である。当時、ここが水運には重要な場所であった事を表しているのだろう。水難者慰靈塔は明治36年に起きた大水害の犠牲者の慰靈塔だとのこと。風が強い場所なので、木野山神社の社殿の床下には重し用の石が置かれ吹き飛ばされるのを防いでいる。しかし屋根の千木は脱落している。

六間川について



火の見櫓・半鐘



六間川の由来(平松氏記・関戸公民館内)

六間川の由来

倉敷市東部の沢 所と呼ばれる低湿地帯の排水のため開削された川。沢所の低湿地帯は天正年中の開発といわれるが、江戸時代になってこの地域を領有した岡山藩はその排水のため1663年に現在の倉敷市三田の前橋から南へ向け福島、五日市を経て西田で倉敷川へ流入する約6.5kmの水路と、東へ向け下庄、大内田を経て撫川の関戸で足守川へ流入する約5kmの水路を開削。前者を西沢、後者を東沢と名付けた。西沢はその幅が6間であったことから六間川と呼ばれる。西沢には八ヶ郷用水、東沢には八ヶ郷用水と湛井十二ヶ郷用水の余水悪水が流入し倉敷川、足守川へ排水されている。1820年興除新田の開発にあたって幕府、岡山藩はこの余水悪水を新田の用水として取り入れる計画を立て東沢の関戸から興除東用水路汗入り川を開削した。また東西に細長い新田の西部をうるおす開削された興除西用水路も西沢に接続取水することとした。沢所の村々は沢所組合を結成して維持管理にあたってきたが近年商業化脱農化の進行に伴い水利負担に耐えかねる動きも出てきた。こうした水の利用に伴い関戸の樋門も役立ってきたのです。新しい樋門が出来て古い水門を取りこわす時代、私達水の番人としてのちの世にのせたら幸いです。

西沢はその幅が6間であったことから、六間川と呼ばれ、西沢には八ヶ郷用水、東沢には八ヶ郷用水と湛井十二ヶ郷用水の余水悪水が流入し倉敷川、足守川へ排水されている。

1820年、興除新田の開発にあたって幕府、岡山藩はこの余水悪水を新田の用水として取り入れる計画を立て、東沢の関戸から興除東用水路汗入り川を開削した。また東西に細長い新田の西部をうるおす開削された興除西用水路も西沢に接続取水することとした。

沢所の村々は沢所組合を結成、六間川の維持管理にあたってきたが、近年の商業化、脱農化の進行に伴い水利負担に耐えかねる動きも出てきた。こうした水の利用に伴い関戸の樋門も役立ってきたのです。新しい樋門が出来て古い水門を取りこわす時代、私達水の番人として、のちの世にのせたら幸いです。